

家桜傾城姿

春ニテの日のおしきん人のひまな

あたらし桜のはんらはらく

はつと入相イアヒの鐘をつくくと

くヒリはんずれば世の中の

まことは命ばかりなり

ふツレたりねたよをつかれてハ

昼の日なたのかげぼうし

それとハしれどものはぬ

わらハぬ花のちりて又来る

春をまもりマサチハコシをまほし
あしなむこゝろはなまはりにかまふ
チぶくにまふことおもへし
いづしおもへしことなきはな
千鳥のおやも 世なむぢやいの
お千代~~~~まへまゐりて
しおもへ~~~~まへまゐりて
よぶが嬉しやハシるこも
しんだは身とせよしや
おくだうし氣の中なむさう

褻ニテをかうとれ此コノれニ神ミコを
かうふうまれとだてらしく
大磯シふうのむすびハら
すめたふうしハらハら
ほめてくれるがうたてせんに
むかしのふうにたちかへる
町チと屋ヤしハの申マに
後家ゴケにならよハで此コノ帯オビを
ほそくせぬがハはハしハめ
とげぬハらハらハらハ

とちねとふるがふたつある
ひとしひめいどの鳥がななく
またハかなしまハなをよと
ばら〜とりのそら見れば
花の雨やら傘さしかけて
びんをなてるに櫛〜と
はつと羽をととの立居にも
道をまよしてゆくまの
目かげちららことば〜と
見ればそらと〜とつげば

風にふわりと裾ふきおくる
かほうたづねるあふがにて
とかくいへんやうほかく
「まなこやのしやんに
月のおぼろとまらよに
又まぐげんの耳みみおそろしき
あけのしやとくに数かずとれば
いろせまぢらの明あけからず
かありくさうそにいはぬ
ほくのいひやこしやうしほ

東く^{ミチ}南^{フキ}く^{ミチ}南^{ミチ}見く見く

すみはてし^ミえだにのころハ

春風の音^{をとミチ}しんくたるはかり也

南^{なむさんぼう}無^{フキ}三^{フキ}宝^{フキ}南^{なむさんぼう}ぞやん^{なむさんぼう}ん^{なむさんぼう}ぼう

よぐ^ミな^ミな^ミば^ミら^ミつ^ミい^ミか^ミ夢^ミか^ミ

ゆめのやめゆく^{あつ}暁^{あつ}の雲^{くし}は

浅^{あさ}黄^{あさ}と^{あさ}染^{そめ}にけり^{そめ}消^きにけり^き

投^な人^な影^{かげ}のなま^{なま}と^{なま}し^{なま}ら^{なま}ぬ^{なま}ば^{なま}幻^{まぼろし}の^{まぼろし}

かげに^{つばき}椿^{つばき}のち^ちり^りし^しほ^ほの

川^かにな^なが^がれ^れて^てう^うせ^せに^にけ^けり